

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	里地里山の特性評価の実施とこれに応じた保全活用の実施
手法名	阿蘇における草原保全と花野再生のための取り組み手法
主体	阿蘇花野協会
背景(地域の課題)	<p>畜産等かつて地域の暮らしや生業で活用されることによって維持されてきた阿蘇の草原は、大陸系遺存植物(※)等固有の希少種の宝庫となっている。しかし、産業構造の変化や人口の減少、高齢化の進行に起因して草原の手入れが困難になり、今、全国的にもその維持は厳しい状況となっている。今後は地域内のみにとどまらない保全・再生に向けた取り組みや仕組みが求められる。</p> <p>※大陸系遺存植物とは、日本がユーラシア大陸と陸続きであった時代に分布し、日本列島の誕生に伴い取り残されたと考えられている植物。</p>
手法／方策の詳細	<p>1) 阿蘇の花野の現状 阿蘇の花野は草原の減少に伴って、平成19年では74種が絶滅危惧種に指定されるなど危機的な状況が続いている。草原減少の原因は農耕牛などが活用されなくなったためだと考えられる(図)。10年後には草原の消失さえも懸念されている。</p> <p>2) 保全方針と取り組み 基本方針としては、昭和40年代以前のように多様な植物が生育する草原生態系を目指している。特定の植物に偏らない保全活動を展開している。 阿蘇固有の希少種は外輪東部に集中している。また貴重な植物は斜面や湿地の底のほうにあることが多く、平坦な所には少ない傾向がある。</p> <p>主な活動は、草刈や野焼きであり、花を植えることはしない。大学と連携したり学生たちのボランティアを呼んだりして毎年継続的に取り組んでいる。観察会などの催しも実施している。</p> <p>3) 取り組みの成果と今後に向けた提言 ヒメユリが回復するなど、2、3年で効果が現れ始めている。しかし、ボランティア確保や資金の問題など課題も多く、例えば「茶草(※)」に利用するなど草を自然資源として利用する仕組みの再構築が必要だと考えられる。また藪化してしまった山麓や手入れが十分でない人工林についても草原再生に向けた検討が必要と考えられる。</p> <p>※茶草とはお茶の材料として利用できる草花のこと。</p>
手法・技術的視点	<p>阿蘇の花野の再生を図るため、草刈や野焼きに加え、観察会や茶草への利用など新たな仕組みづくりの視点が導入されている。希少種保護だけでなく、多様な植物の生育環境を担保する草原生態系の再生と活用を目指す基本方針は、里地里山の保全と活用の持続的な展開のための具体的な取り組みとして参考になる。</p>
<p>図 阿蘇の草原利用形態と植生</p>	
参考資料	里なびin熊本 阿蘇花野協会 瀬井純雄